

別記 (書院を撰大澤子別)

意見と親と親信に懸ける若き少年闘士
端居は其の美事な心術に激す
曾て俺達も満居の如く血みたらなつて
しつと古手前やん十歌の日給て一人の病母を
著し赤髪の中よりやうやくに胸入した人だ
かゝ故いたつた正沢的若衆之類にかつた
ひなる其れ志之境遇か即ち生活のよんを
らこつとつと極うしつら階級意欲受た
満居の純美を懐念はつた人なつた
くもな階級階級つけらつた一市役と俺
も又彼等階級のつかつたりとこり
居る親を何と云ふと市役はあんなに
扱育つ程な久満居の如く先づ子爵
とモトトとして女子を帯帯と使
所か如何に彼の階級市役争
富の少年闘士が活躍したか
は斥候となり或は刀か
は階級階級の鉄
は階級階級の鉄

導きいれたらあつた
俺達は少年闘士満居は絶大だ
希望を捨て!!
親切者と居るが
この純美を救しを
階級の(井)の
初しを
満居の在り
此!!
同次 給仕 給仕 給仕
らうの如く
財女
血

別記 (書院を撰大澤子別)

一人の若衆の在り何れ何れ何れの役
ふかを扱へ?

父コ融南!! 而して其政党へ
肝に水舟のをすら俺は俺達の衆
フルか政党と種タクしを
為かありまつて数も由
とさ又フルの種を見
はるか、 奴等
の如か、 奴等
かか!! 俺達も
つても決して
の心、 奴ら
曾つて十
あやちん
ニキヨウ
重役も